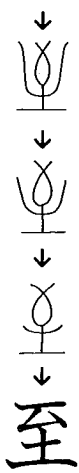


# 至

六年

画数 6  
筆順 一 ㄣ ㄣ 至  
オン シ  
クン いたる

成り立ち



空を飛んでいた鳥が、地上に降りようとして「いたりつく」すがたを表した字です。

鳥が地上に「いたる」ことを表した字です。【例】必至、至極。

「至り極まる（至極）」の意味にも使います。【例】冬至、夏至、至宝、至言。

また、「至って（とても）」という意味にも使われます。

【例】至難、至近、至高、至誠、至急。

使い方

▽「失敗は成功の母（もと）」というのは、まさに至言です。失敗しても、それであきらめずに、なぜ失敗したかを考えて、工夫しながら何度もやっているうちに、やがて成功するのです。失敗を恐れず、成功するまでやってみることが大事です。

▽吉田松陰は至誠の人です。日本の国のため、真心をささげ、ついには自分の身をささげてつくしました。今では、その遺徳をたたえる「松陰神社」があります。

熟語例

▽必至（必ずそういう結果に至ること。「わが方の勝利は必至だ」などというふうに、つかいます。）

▽至極（至り極まること。この上ないこと。「恐縮至極です」などというふうに、つかいます。）

▽至宝（この上ない宝。「川端龍子は日本美術界の至宝である」などというふうに、つかいます。）

▽至言（この上ない良い言葉）

▽至難（非常に難しいこと。「この仕事を完成させるのは至難のわざだ」などというふうに、つかいます。）

▽至誠（この上ない誠実なこと。）

# 私

六年

画数 7  
筆順 一 ニ 禾 私  
オン シ  
クン わたくし

成り立ち



鼻の形を表し、「わたくし」と言っ自分のことを表した「ム」と、稲の意味を表した「禾」とを組み合わせて作った字です。

「公（年129）」用の「税（年579）」の米に対して、「私用の米」を表した字です。

今では、単に「わたくし」という意味に使われています。

「公」に対する字ですから、「ひそかに」「内緒で」「自分勝手に」などの意味にも使われます。【例】私語、私刑。

使い方

▽私事（私事で恐れ入りますが、私もそれと同じような体験をいたしておりしますので、ご参考になるかと思ひ、あえて発表させていただきます。）

▽地位が高くなると、とかく公私を混同して、公共物を私物のように使ったり、部下を私用に使ったりする人がいます。

熟語例

▽私事（私事。自分だけに関係のある事。「個人的な事」という意味にも使います。また、「内緒事」という意味にも使います。）

▽公私（公と私。公的な事と私的な事。公共的な事と個人的な事）

▽私物（自分の物。また、「個人の持ち物」）

▽私用（自分の用事。また、「自分個人の事に使う」こと。）

▽私曲（曲は「不正」。自分の利益のために不正を働くこと。）

▽私語（内緒話。話してはならない時にする勝手な話のこと。）